

Siemens QSIG との相互運用性：発信者名とコール転送が動作しない

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[QSIG プロトコル](#)

[コール転送が機能しない](#)

[発信者名が転送されない](#)

[解決策](#)

[ASN.1 ROSE OID Encoding を変更する](#)

[関連情報](#)

概要

Media Gateway Control Protocol (MGCP) を使用する Cisco 音声ゲートウェイで、E1 Q Interface Signalling Protocol (QSIG) によって Cisco CallManager に接続された構内交換機 (PBX) を使用する場合、発信者名は表示されません。さまざまなベンダーからの転送されたコールも、ドロップされます。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco CallManager 4.x に基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

QSIG プロトコル

QSIG プロトコルは、Private Integrated Services Networks (PISN) のサービスおよびシグナリング プロトコルを定める一連の国際標準です。これらの標準では、統合デジタル通信網サービス (ISDN) の概念を使用し、ISO/IEC によって定められた Open Systems Interconnection の国際標準の枠組みに準拠します。QSIG プロトコルは、ISDN D チャネル音声シグナリングの変形として機能します。ISDN の Q.921 および Q.931 標準は、PBX 相互接続の世界的な標準を定める QSIG プロトコルの基盤となります。

基本的な QSIG コールでは、Private Integrated Services Network Exchange (PINX) のユーザはリモート PINX 内のユーザにコールを発信できます。着信側は、呼び出し音が鳴ったときに発信者の名前または番号を受け取ります。発信側は、リモート PINX でユーザの電話機の呼び出し音が鳴ったときに着信者の名前と番号を受け取ります。PBX ユーザが利用できる機能はすべて、ネットワーク全体にわたって透過的に動作します。QSIG プロトコルは、コールの両端で対応する QSIG 機能セットがサポートされている場合、PISN に対して定義されているように補足の追加的なネットワーク機能を提供します。

コール転送が機能しない

QSIG プロトコル バージョン 2 を使用している場合、Cisco IP Phone がサードパーティ電話から発信されたコールを別の Cisco IP Phone に転送すると、最初の電話コールがドロップされます。同様に、サードパーティ電話が Cisco IP Phone から発信されたコールを別のサードパーティ電話に転送すると、最初の電話コールがドロップされます。

発信者名が転送されない

QSIG プロトコルを使用し、サードパーティ PBX に接続された電話から Cisco IP Phone にコールするか、Cisco IP Phone からサードパーティ電話にコールした場合、サードパーティ電話の発信者名は Cisco IP Phone に表示されますが、Cisco IP Phone の発信者名はサードパーティ電話に表示されません。つまり、発信者名情報が Cisco CallManager からサードパーティ PBX に渡されません。この問題は、Cisco Bug ID [CSCee08424](#) ([登録ユーザ専用](#)) に記述されています。

解決策

これらの問題は、Cisco CallManager がサードパーティ PBX からのファシリティ メッセージをデコードできない場合に発生します。

ASN.1 ROSE OID Encoding を変更する

Cisco CallManager とお使いの QSIG プロトコル バージョンとの互換性を確保するには、ASN.1 Rose OID Encoding および QSIG Variant サービス パラメータを設定します。このドキュメントで説明されている問題は、[ASN.1 ROSE OID Encoding] を [Use Global Value (ECMA)] に変更すると解決できます。ASN.1 Rose OID を変更するには、このセクションの手順を実行します。

注: ASN.1 Rose OID パラメータでは、遠隔操作サービス要素 (ROSE) 操作の呼び出しオブジェクト ID (OID) のエンコード方法を指定します。[Use Local Value] (ほとんどのテレフォニーシステムでサポートされます) は、QSIG Variant ISO を使用するときを使用する必要があります。[Use Global Value (ISO)] は、接続された PBX で Local Value がサポートされていない場合の

み使用する必要があります。 [Use Global Value (ECMA)] は、QSIG Variant が ECMA である場合に使用する必要があります。 これは必須フィールドです。 デフォルトは [Use Local Value] です。

1. [System Parameters] に移動するには、[CallManager Administration] ページに移動して [Services] > [Service Parameters] を選択します。
2. [Advanced] タブに移動します。
3. [Clusterwide Parameters (Device - PRI and MGCP gateway)] でパラメータ名 [ASN.1 ROSE OID Encoding] を見つけ、パラメータ値を [Use Global Value (ECMA)] に変更します。 これは、Q.SIG Variant サービス パラメータが ECMA (Protocol Profile 0x91) に設定されている場合に使用されます。 注: [ASN.1 ROSE OID Encoding] のデフォルト値は [Use Local Value] です。 これはほとんどのテレフォニー システムでサポートされており、Q.SIG Variant サービス パラメータが ISO (Protocol Profile 0x9F) に設定されている場合に使用する必要があります。
4. [Update] をクリックします。

Clusterwide Parameters (Device - PRI and MGCP Gateway)		
Parameter Name	Parameter Value	Suggested Value
ASN.1 ROSE OID Encoding*	<input type="text" value="Use Global Value (ECMA)"/>	Use Local Value

関連情報

- [Unity ボイスメール統合での Call Manager と Avaya S8700/G650 間の Q.SIG PRI トランクの設定](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声とユニファイド コミュニケーションに関する製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)